

確固たる「軸」が必要だと感じた

8月号の特集を読んで感じたのは、物質的に豊かな時代に精神的な豊かさを得るためには、確固たる「軸」が必要であるということだ。今後の指導に大いに参考になった。座談会では、ソフトバンクモバイル株式会社の喜多の榎裕明常務執行役員が「教師が社会の変化を知ることが大切」と述べていたが、学校という閉ざされた環境にいる我々は社会を常に意識し、目を外に向けておかなければいけないと改めて感じた。また、鳥山恵美子さんの記事では、その経歴に刺激を受けつつ、「逆境をチャンスに（ポジティブ思考）」「ジエネラリストかスペシャリストか」という考え方に共感した。

「愛知県・匿名希望」

10年後の社会を考える機会となった

10年後の社会について真剣に考えなければならぬ時代になったと、8月号の特集を読んで感じた。生産年齢人口の減少、地域間格差、グローバル化の問題が、繰り返し報道されている。その中で、大南信也さんの記事では、公共事業に頼らない地域づくりに地域の縮小を緩和させるヒントがあると示していた。都会に出て限られたトップ層が主役として活躍し、それ以外の人が不安と不満を抱えながら暮らす社会より、それぞれが主役として暮らす地域が地方であれば、人の流れも変わると思った。

「新潟県立十日町高校・清水 哲」

着眼点の変化や工夫で改革は出来ると実感

8月号「新課程 指導最前線」の北海道札

Reader's VIEW

Volume 4

読者のページ

読者の先生方からのご意見を紹介します

幌西高校の事例で最も感銘を受けたのは、従来の取り組みを精選し吟味し、改善することで効果を上げた点である。限られた時間や体制の中であっても、着眼点の変化や工夫によって、いつでも誰でも改革は出来ると、勇気をもらった。また、愛知県立豊田南高校も同様に、従来のあり方に生徒の目線に合わせたやり方を模索することでその成果を得ているところに感銘を受けた。

「愛媛県立今治南高校・重松洋一郎」

教師一人ひとりの力の結集という視点に共感

8月号「指導変革の軌跡」の長野県上田高校が行っていた、「チーム医療」をキーワードに教師一人ひとりの力を結集」という視点に大いに共感した。教師が個々に行う指導の力を、相互作用によっていかにシナジー効果を生むものに高められるかが、学校として問われる指導力であることを改めて認識した。加えて、そうした指導力の向上には、その学校独自の校風を活用していく視点も見逃せないと感じた。

「兵庫県・私立神戸国際中学・高校・徳岡 努」

教師川柳

変わるもの 変わらぬものを 追いかめ

長野県・一徹

「VIEW21」高校版はウェブサイトでもご覧いただけます！

本誌の最新号、及びバックナンバーは、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトで公開しております。誌面のPDFや「生きたデータの徹底研究」の図版もダウンロードできます。ぜひご利用ください。

詳しくは

VIEW21 高校版

検索

<http://berd.benesse.jp/magazine/kou/>



編集後記

◎「軸」をつくり「修正力」を高めることは、大人にとっても難しいテーマかもしれませんが、未来からの留学生である現在の高校生に10年後の社会を力強く生きてほしいという願いから、このテーマを特集で取り上げさせていただきました。今号では、「軸」を育み「修正力」を高める土台としての「自己肯定感」に着目しました。この「自己肯定感」こそ、教育で求められる「不易」の部分なのかもしれません。今号も最後まで読んでくださり、ありがとうございました。（竹内）

VIEW21 10月号 Vol.4

2014年10月24日発行

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 凸版印刷(株)
 編集協力 (有)ペンダコ
 執筆協力 中丸 満、二宮良太、長谷川敦
 撮影協力 荒川 潤、谷口 哲、ヤマガチイキ
 イラスト協力 カモ

VIEW21編集部
 〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング14階

©Benesse Corporation 2014

VIEW21

2014
 December
 12月
 Volume 5

次号は
 12月18日発行(予定)
 「VIEW21」高校版は
 年6回の発行です